

JCCCAの 活動プログラムとは ◆◆

JCCCAでは、参加者が地球温暖化問題と自分自身のつながりを知り、地球温暖化防止のために様々な行動をはじめるときっかけとなるプログラムツールを独自に開発しています。

●活動プログラムは、温暖化の情報を見聞きするだけではなく、参加者が頭や体を使ったりグループワークをしながら温暖化問題を考え、その防止への一歩を踏み出すきっかけとなるように工夫されています。

●この資料には、活動プログラムの「ねらい」や「手順」「注意点」などを記載してあります。ご利用の際に活用してください。

●プログラムの内容については、地域の特性、対象者の年齢や興味関心、かけられる時間、人数などによってアレンジしてください。

●ご活用後の感想やお気づきの点などを、添付のアンケート用紙にお書きください。皆様のご意見をプログラムの改良や新規開発に活かし、全国へ再発信してまいります。

●お問い合わせやご質問などは、下記までご連絡下さい。

電 話 0 3 - 6 2 7 3 - 7 7 8 5

F A X 0 3 - 5 2 8 0 - 8 1 0 0

1 ねらい / テーマ

家電製品をどのように使用しているのか、エアコンを切り口に考えていき、家庭ですぐに実践に移せる自分なりの節電方法について考えてもらう。

／ テーマ：節電、地球温暖化の対策

2 概要

東日本大震災に伴う電力不足から関心が高まっている「家庭での節電」について考えていく。エアコンを切り口に自分の生活スタイルを振り返りながら、対象者一人一人が「がまん」や「無理」をしないで効果的で、続けていくことの出来る「自分に合った節電方法」を見つけていく。ピークシフトなどの短期的な対策ではなく、低炭素なライフスタイルの転換へとつなげる。

■所要時間…30分～40分

■対象層…中学生以上

■適 数…指導者1名あたり参加者20名程度まで

3 皆さんにご用意いただくモノ

※JCCCAからの貸出し物は、「チェックリスト」をご覧ください。

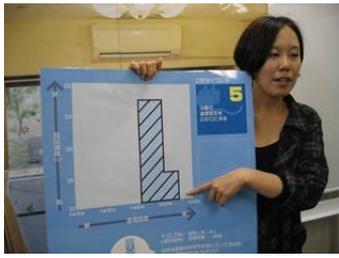
マグネット、ホワイトボードなどや黒板など、ワークシート記入用筆記用具、人数分のクリップボード（机がない場合）、テープ（マグネットが使えない場合）

4 関連づけしやすいJCCCAのツール

- ツール A02-01 「持てるかな？エネルギーのかばん」…私たちの便利な暮らしを支えるために、どんなところでエネルギーを使っているか。地球温暖化と自分の生活とのつながりを考えていく内容です。
- ツール A03-01 「ライフスタイル研究所 省エネ大作戦」…ある家のキッチンとリビングの写真を見ながら、その家の問題点やよりよく暮らすための改善アイデアを考えていく内容です。
- ツール A03-04 「エコのタネを見つけよう」…私たちの暮らしが多くの『エネルギーで動くもの』に支えられていることを、家庭での電気の使われ方や自分の生活を振り返ることから理解し、より良い省エネや節電の方法を考えていく内容です。
- ツール A18-01 「僕らの未来基準～マイ☆アレンジ～」…世の中にあふれる地球温暖化対策の中で、身近ですぐ始められそうなことから、社会や地域で考えなければいけないことまで、自分なりの“未来基準”を見つけ、自分なりにアレンジし、本気で取り組んでいけるアクションを考えていく内容です。

5 活動プログラムの進め方 (例)

進行イメージ	内容	備考
	<p>0：準備しよう</p> <p>道具類をそろえ、プログラムを行う場のセッティングを行う。<u>ツールNo.2</u>は壁やホワイトボードに貼っておく。ワークシートは必要な枚数コピーして、配布しておく。</p>	
<div data-bbox="188 887 528 1137" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="181 1184 552 1326" data-label="Text"> <p>去年の夏は暑かったですよね。私の家では他の月と比べて、電気代が高くなりましたね。(参加者にお宅ではどうでしたか?)</p> </div> <div data-bbox="188 1469 528 1720" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="181 1767 552 1982" data-label="Text"> <p>このグラフは、今年の夏の日中に家庭でどの家電製品の消費電力が高いのか予測したグラフです。エアコンの割合が高くなっていますね。今日はそのエアコンの節電について考えていきます。</p> </div>	<p>1：導入 (約5分) 今年の夏も暑い?</p> <p>節電について考えていく前に、参加者に夏の暑さについて思いを巡らせてもらうクイズを実施する。 <u>ツールNo.8 クイズ①</u></p> <div data-bbox="608 1016 1099 1379" data-label="Complex-Block"> <p>過去30年の東京の真夏日の日は平均して年間何日?</p> <p>約 30日 約 50日 約 70日</p> <p>2010年夏の東京は… 真夏日 71日 猛暑日 13日</p> <p>↓ 正解</p> </div> <p>補足シートを紹介し、昨年の夏はどのようにエアコンを使っていたかを思い出してもらう。2, 3名にインタビューする。</p> <p><u>ツール No.4</u> を示して、夏のエアコンの消費電力の大きさと、このプログラムではエアコンの節電について考えていくことを伝える。</p>	<p>★ワンポイントアドバイス 「エアコンなしの生活はきびしい…」と再認識してもらうことは重要ですが、決して「無理」「我慢」を強要することがないように柔らかいトーンで進める方が、実際の行動につながりやすいでしょう。</p>



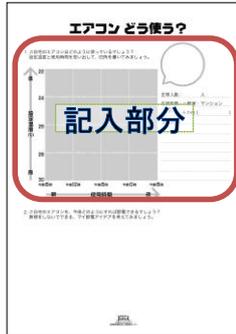
エアコンの消費電力は設定温度と使用時間によって大きく左右されます。例えば、こちらのご家庭。使用時間は短いのですが、温度設定が低いですね。



昼間は仕事で家にいないからエアコンを使わないけれど、夜は25度ぐらいで寝るまでつけているなあ。旦那が暑がりなんだよね。

2 : 本体 (約 10分) わが家のエアコン、どう使ってる？

ツール No. 3 の中から 1、2 枚を選び、シートの解説を行うことにより、参加者がどのようにエアコンを使用しているかを思い出してもらい、ツール No. 16 中のワークシートに四角で記入してもらおう。



参加者がワークシートを書き終わったら、参加者同士で意見交換してもらおう。参加者同士での共有後、指導者から 2、3 人にどうしてそのような形になっているのか、参加者のライフスタイルについてインタビューする。

★ワンポイントアドバイス
シートは指導者が解説しやすいものが良いでしょう。シートの右下のテキストを読むだけでも良いでしょう。また、シートは貼っておくよりも、指導者が手に持って、参加者の方に歩み寄って、お見せする方が良いでしょう。

★ワンポイントアドバイス
エアコンが複数台ある場合は、よく使うリビングなどのエアコンを想定して記入してもらおう。

★ワンポイントアドバイス
自宅でエアコンを使っていない方でも、生活の中で全くエアコンに触れないことは少ないと考えられます。ここでは、自宅ではエアコンを使用していない方にも、勤務先などの身近な場所でのエアコンの使用方法についてワークシートを記入してもらいましょう。

★ワンポイントアドバイス
ワークシートに参加者が記入した四角（消費電力）が大きくても、指導者からのインタビューでは詰問調にならないようにしましょう。

3 : 本体 (約 10分) わが家のエアコン、どう使う？

ツール No. 2 を参加者に見てもらいながら、エアコンの消費電力をどのように下げられるかを考えていく。

エアコン本体の使用方法も重要だが、家の断熱も重要であることに目を向けてもらうために、クイズを実施する。

ツール No. 9 クイズ②



ご自分の家ではどんな節電方法が考えられますか？ どうすれば、先ほど書いてもらった四角を小さくする事が出来るでしょう？

夏の冷房時の家で熱の入ってくる割合は？

まだ 約30% かべ 約30% その他 約40%	まだ 約50% かべ 約20% その他 約30%	まだ 約70% かべ 約10% その他 約20%
--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

↓
正解

まだ 71% かべ 13% その他 16%



この図にあるように夏は窓から入ってくる熱をどのように防ぐかが重要です。



これらの対策はすべてを実施するのが良いわけではなく、無理をしないで我慢しないご自分にあった対策を選ぶことが重要です。



食べておいしく、体も冷やす一石二鳥の食べ物もあります。我慢をせずに楽しみながら節電できるといいですね。

ツール No. 7[熱はどこから入ってくるの]を紹介して、参加者の家で行っている断熱対策と効果を2, 3名にインタビューし、その内容を受けてツール No. 12[節電対策]中の1, 2, 6などを紹介する。

生活の知恵にも目を向けてもらうために、クイズを実施する。

ツール No. 10 クイズ③

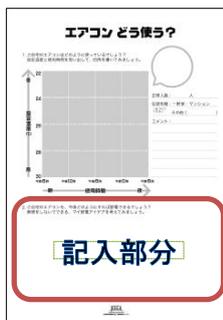
打ち水はどの時間帯にするのが効果的？

正午 昼の12時	午後3時	夕方6時
-------------	------	------

打ち水は…
朝・夕方が効果的

↓
正解

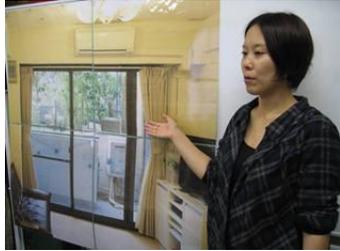
ツール No. 12 中の他のシート(※)やツール No. 14 もいくつか紹介し、参加者の興味が高いものについては解説する。参加者には話を聞きながら、気になったものはワークシートに書いておいてもらう。



ツール No. 14 で体感温度を下げる工夫について紹介した後に、参加者がすでに行っている体感温度を下げる工夫を2, 3名にインタビューする。

★ワンポイントアドバイス
参加者の興味が高いものに関しては、参考資料などを読みながら解説することも良いでしょうが、参加者全員が興味を持っているわけではないことも考えられますので、情報過多になりすぎないようにしましょう。

※ツール No. 12 中の 1～10 までがエアコンに関する対策となっています。11以降を間違えて提示しないようにしましょう。

 <p>私たちはこれからどのようにエアコンを使っていけば良いのでしょうか？</p>	<p>自宅でのエアコンの使い方やこれからの暮らし方を考えてもらうために、クイズを実施する。</p> <p><u>ツールNo. 11 クイズ④</u></p> <div data-bbox="598 398 1109 772"> <p>エアコンが一家に1台普及したのは、いつ？</p> <p>1984年 1988年 1994年</p> <p>2009年現在 エアコン 世帯普及率 約 260%</p> <p>↓ 正解</p> </div> <p>エアコンを今後どのように使用していくのかを考えてもらい、ワークシートにどのようなことを書いたか2, 3名にインタビューする。</p>	<p>★ワンポイントアドバイス クイズ④では、正解発表後に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅のエアコン台数 ・自宅でエアコンを使用し始めた年 ・エアコンがない頃の暮らしなど様々な角度から話を広げる事が出来ます。参加者に合った切り口で今後のライフスタイルを考えてもらうようにしましょう。
 <p>暮らし方によって電気を使っているところは違うはずですね。</p>  <p>ご自分なりの節電アイデアを考えて見てください。無理なく、我慢しないことがポイントです。</p>	<p>4：まとめ (約5分) 全ての家電の節電へ</p> <p>ピーク時だけではなく他の時間帯の節電も重要であることや家庭の生活実態によって電力の割合が違うことを<u>ツールNo. 5</u>を示して伝える。</p> <p>エアコン以外の製品の節電についても促す。<u>ツール No. 13</u>を示して、我慢をしない自分なり節電方法を実施して欲しいことを伝える。</p>	<p>★ワンポイントアドバイス まとめでは、これまでのインタビューなどでの参加者の発言を引用しながら、押しつけがましくならないようにまとめるようにしましょう。</p> <p>★ワンポイントアドバイス JCCCAウェブサイトからダウンロード出来る「どうする？ どうやる？ 節電せいかつ」や具体的な節電方法が載った冊子などは、まとめでおみやげとして配布すると日常につながりやすいでしょう。</p>

6 関連情報

■参考情報

- ・気象庁 気象統計情報 過去の気象データ検索

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

・東京以外の地域でも「夏日・真夏日の日数・平年値」「前年の夏日・真夏日の日数」が容易に検索できる。

①平年値の検索方法：上記URLより「地点の選択…任意の地域を選択」→「データの種類…年・月ごとの平年値を表示」→「主要要素…詳細（気温・蒸気圧・湿度）」

②前年の夏日・真夏日の検索方法：上記URLより「地点の選択…任意の地域を選択」→「年月日の選択…2010年を選択」→「データの種類…2010年の月ごとの値を表示」→「主要要素…詳細（気温・蒸気圧・湿度）」

7 地域でのアレンジ

エアコンがなかった頃の涼み方から学ぼう！

エアコン普及率が1%以下だった1960年以前はどんな涼み方をしていたのでしょうか？扇風機はもちろん、よしずやすだれ、うちわなど近代以前の知恵などに学ぶのも良いでしょう。親子対象の工作教室なども良いでしょう。

参考情報：参加型体験学習の手引き（JCCCA作成）

http://www.iccca.org/support/img/index_data03.pdf

● 情報提供のお願い ●

「こんなふうに使ってみたよ」「こんなデータが集まった」というような情報など、ぜひJCCCAへお知らせください。JCCCAのプログラム開発に活かし、全国へと再発信してまいります。よろしくお願ひします。